

## 第 4 回都市構造部会でのご意見と対応の方向

テーマ	部会でのご意見	対応の方向
全体的な視点から重点戦略の狙いを設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 脱原発依存など、旬な話題だけに取組むのではなく、全体的な視点から取組むべき（小林部会長）</li> <li>● 重点戦略では Co2 にも触れるべき。（村木専門員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 脱原発依存だけでなく、低炭素社会の実現などを重点戦略の狙いに明記する。</li> </ul>
重点戦略の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広域を含め北海道札幌の良さを活かし、質の高い再生エネルギーを開発する意欲や北海道の特色を出した最先端の取り組み・研究をする決意を示すべき。（志済委員）</li> <li>● 公共施設において、率先して省エネ行動などを示すべき。（志済委員）</li> <li>● 環境が経済・雇用の創出につながるが見えることが重要。（近久委員）</li> <li>● 重点戦略を実現する具体的な事業など後ろ盾を同時に検討すべき（村木専門員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重点戦略に「道内最大のエネルギー消費地である札幌として、広域的な再生可能エネルギーの普及など北海道の特徴を生かした取り組みを推進」を記載。</li> <li>● 重点戦略に「地球温暖化対策などの環境負荷を低減する取り組みの推進にあたって、公共施設での先導的な取り組み」を記載。</li> <li>● 重点戦略に「これらの取り組みを新たな価値を創造する環境関連産業の振興につなげていく」を記載。</li> <li>● 庁内において重点戦略を実現するための具体事業の検討を実施し、来年度以降に事業を実施する。</li> </ul>
持続可能性について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「持続可能」というものはエネルギーに限定したのではなく、経済的・社会的・環境的な要素を合わせてマネジメントしていくことがサステイナブルシティという概念。</li> <li>● ビジョンの前段において、（サステイナブルシティなどの）概念を位置づけておくことが必要。</li> <li>● 市街地の近くに豊かな自然があることも札幌の強み。これも意識すべき。（以上、小林部会長）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 左記の視点を十分に踏まえながら、まちづくり戦略ビジョンの「都市像」を検討する。</li> </ul>
各主体の役割の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政とビジネス、コミュニティ（ABC）の全てがセットでないと社会は回っていかない。これを如何に記載していくかが重要な視点。（小林部会長）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本目標、重点戦略に各主体の役割を記載する。</li> </ul>
市民にも分かりやすい記載	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目指す姿と現実の乖離に対して市民が何に取り組むのかを伝える。</li> <li>● 重点戦略が行政計画とするのであれば、市民に分かりやすいイメージを載せることなどが必要。（以上、丸山委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第 2 章で現状認識を示した上で、第 4 章の基本目標、第 6 章の重点戦略で取り組みの方向性を示す。</li> <li>● 記載にあたっては、イメージ図の掲載などにより、分かりやすい表現とする。</li> </ul>

第7章関連

テーマ	部会でのご意見	対応の方向
札幌単体ではなく広域関係が重要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一都市単位ではなく、シティリージョン、エコリージョンの単位で世界とつきあう意識を持つべき。(小林部会長)</li> <li>● 「札幌市の都市空間像」が端的に語れないと、札幌市が投資の対象にもならず、国内外で意識されない。(小林部会長)</li> <li>● 札幌の持つ魅力には「安全性」があり、3.11以降は特に企業からも注目されていることを意識・発信すべき。(小林部会長、田村委員)</li> <li>● 広域を含め北海道札幌の良さを活かした取り組みを示すべき。(志済委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3節「北海道の中の札幌の位置づけ・役割」で、北海道のHUB機能、周辺の空港や港湾との関係、観光や食資源による広域関係について記載</li> <li>● 経済の重点戦略で『道内外とのヒト・モノ・カネの流れを活性化させるため、道内の産業連関を高めるとともに、広域経済圏における主要な空港や港湾などとの交通ネットワークを強化する。こうした取り組みによって、道都・札幌の都心の魅力づくりや、国内外からものづくり機能やバックアップ機能などを誘致、集積させるための環境づくりを推進する。』を記載。</li> </ul>
持続可能な都市づくりの表現が重要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンパクトシティではなくサステナブルシティの概念を使い、如何に表現していくかが重要。(小林部会長)</li> <li>● サステナビリティはエネルギーだけではなく、歴史的資源なども含まれる。その優先順位を合わせて検討することも必要。(村木専門委員)</li> <li>● 公共交通を維持していくことが、市民生活の質の向上につながる、と言ったメッセージが必要。(近久委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口減少、少子高齢化の中において、縮退だけではなく、都市のマネジメントの視点から市民生活の質の向上、持続可能な都市を構築していく旨を記載。</li> <li>● 都心部などの既存の熱ネットワークを再生・活用する取り組みを重点戦略で記載。</li> <li>● 持続可能性の視点については、第3章「都市像」や第5章「展開方針」にも記載し、エネルギーだけではなく、社会や経済の視点からも記載する。</li> </ul>
札幌のライフスタイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民が、自分のこれからのライフスタイル、ワークスタイルが明確になることにより、まちづくりに関わっていく手だてが見えてくる(丸山委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な札幌のライフスタイルを支える方向性を記載</li> </ul>
地域の特性に応じた都市構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全市を一律に考えることができない。利便性の高い地域、郊外の住宅地などで異なる空間像の検討が必要(小林部会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都心からの距離、都市基盤の整備状況、都市づくりの歴史的経緯などを踏まえ、市街地をいくつかのゾーン(環状通の内側、地下鉄沿線、郊外住宅地など)に分ける。</li> </ul>